

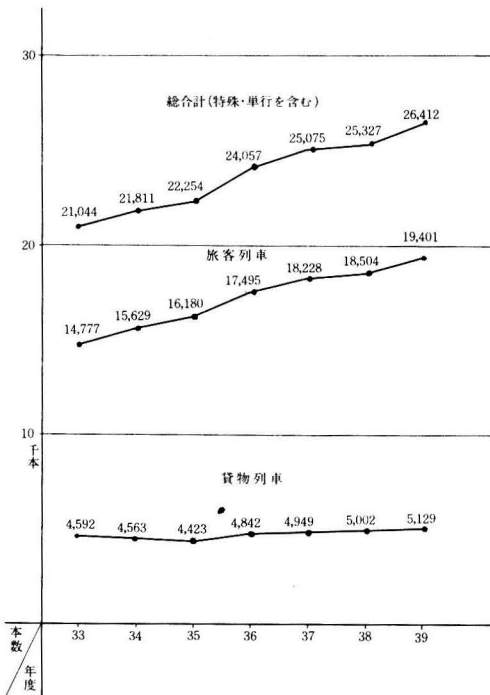
うとする目的によって種々さまざまである。

表-2 国鉄列車設定本数 (昭和39・10・1現在)

列車種別	設定本数	列車種別	設定本数	
旅客列車	特急	12	特急貨	9
	普通急	134	貨急車貨	59
	準急	40	物急送貨・送貨	47
	普通	1,748	列急小貨	15
	荷物	77	車その他貨物	4,999
	回送	536	計	5,129
	小計	2,547	特殊列車	345
	混合列車	188	総計	24,875
	計	2,735	単行機関車列車	1,537
	超特急	28	総合計	26,412
電車	特急	48	新幹線超特急	28
	準急	72	" 特急	32
	普通急	129	小計	60
	普通	8,463	特急	60
	荷物	68	普通急	318
	回送	860	準急	678
	小計	9,668	普通	16,105
	特急	32	荷回	151
	普通急	112	計	19,113
	準急	509		
気動車	普通	5,894		
	荷物	6		
	回送	445		
	小計	6,998		
合計	19,401			

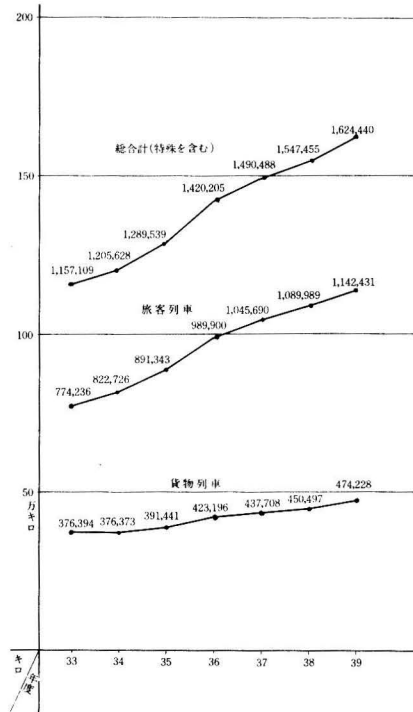
列車本数の表現の場合最も注意を要するのは、片道本数か上り下りの合計本数かという区別で、通常単に列車本数という場合には上下合計の本数を表わすので、片道列車本数の場合は必

図-1 列車設定本数の推移



ずその旨を明示しなければならない。列車本数の表現の中に区間別列車本数というのがありますが、これは線区のうちのある2駅間に運転している列車の本数を示している。この表現は列車の数を線区の1断面でとらえるもので、線路容量の表現として用いられるほか、その線区の輸送量・輸送力等の判断にも用いられ、きわめて重要なものである。

図-2 列車設定キロの推移



国鉄の主要線区における区間別列車本数の代表例をあげると、表-1のとおりである。もちろん列車の輸送力は、その編成車両数・車両定員等によって差があるので、直接的に輸送力を表現していない点には留意する必要がある。

昭和39・10・1現在における国鉄全体の列車本数(臨時列車を除く)は、表-2に示すとおりで、旅客列車1万9,401本、貨物列車5,129本、特殊列車・単行機関車列車を含む合計では2万6,412本である。なお列車設定本数の推移は図-1、列車設定キロの推移は図-2のとおりである。(二平 肇)

れっしゃむせん 列車無線 (英) train radio

1 列車無線の方式

列車無線は無線方式から分類すると、空間波を利用する空間波方式、通信線・電力線等と車両アンテナとの間の電磁および静電誘導結合を利用する誘導無線方式に大別される。

現在実用されている東海道新幹線列車無線や常磐線の列車無線は空間波方式であり、近鉄の列車電話は誘導無線方式である。

一方、列車無線を使用周波数帯から分類すると誘導無線方式は100~400kc程度であり、空間波無線方式では、150mc帯ならびに400mc帯が主として使用されている。また使用目的により分類すると、運転保安用、公衆通信用に大別され、その通話方式としては通常受信機だけが動作しており、送話したいときに押しボタンを押して送信機を動作させ、同時に自局の受信機を停止させて通話するプレストーク方式と通常の電話の方式と同様に送話と受話が同時に行なえる同時送受話方式とがある。